

平成20年度 岡山県木材加工技術センター機関評価票(結果)

1 運営方針及び重点分野 【平均 4.33】	非常に優れている (2人) 優れている (4人) 妥当 見直しが必要 全面的見直しが必要
<ul style="list-style-type: none"> 地域産木材の品質向上と需要拡大を目的とした試験研究を遂行するための運営方針が明確に示されている。そのために設定されている重要分野も適切である。 日本の木材加工に求められている乾燥技術の向上のための研究や製材品等の品質管理技術の向上の為に研究など時代の要請にマッチした方針が出され適格である。 森林県岡山としては、当センターが機能していることはとても心強いことである。 美作材ブランドの維持拡大に時代の変化に対応すべく課題を設定されている。 	
2 組織体制及び人員配置並びに予算配分 【平均 3.00】	非常に優れている 優れている (2人) 妥当 (2人) 見直しが必要 (2人) 全面的見直しが必要
<ul style="list-style-type: none"> それぞれの異なった研究を一人で行っており、より効率の良い研究成果を得るためにはサポートが必要だと思われる。 岡山県の厳しい財政状況の中で、試験研究課題に加えて、少人員で木材全般の相談窓口として広く対応されている。 研究分野に対し1名専属という形である。相互の連携があるともっと良いと思う。ただ、人員の数、予算規模が少ない点に問題があるとも言える。 研究員だけの運営、試験研究、業界の普及指導は相当な激務と推察される。研究規模的には予算配分も限界状態と思われる。 カツカツの人員では、研究員の退職後の技術・ノウハウの継承が出来ない。継承を考えた人事が必要。研究員が研究に専念できる体制をつくるために民間企業からのアシスタントとしての派遣制度を考えてみたらどうか。 	
3 施設・整備等 【平均 2.67】	非常に優れている 優れている (1人) 妥当 (2人) 見直しが必要 (3人) 全面的見直しが必要
<ul style="list-style-type: none"> おおむね妥当と判断。しかし今回のグレーディングマシン導入のように、今後必要とするものが増えて来るのでは？ 既存の設備を有効活用され、予算事情から十分な保守点検、維持修繕に苦慮されている。 木材加工・木製品製造業という装置による品質向上と生産能率を追求する産業を対象とする研究に対しては、設備機器の老朽化が目立つ。業界を先導するためには、新しい設備機器への更新が望まれる。 点検整備費が少ないため、現設備の整備にのみ使われており、未整備のため利用できないままになっている設備があり、改善した方が有効である。 	
4 研究成果 【平均 4.67】	非常に優れている (4人) 優れている (2人) 妥当 見直しが必要 全面的見直しが必要
<ul style="list-style-type: none"> 5人の研究員がそれぞれの課題、目的で地道に研究を行っている。 製材品の品質向上及び新しい利用への開拓など、生産業界や消費業界の動向に適切に対処している。研究成果の中には、県内業者と共同で商品開発したもの、特許申請中のものやJAS改正に利用されたもの等が見られ、技術移転・普及がきわめて適切に行われたと言える。 杉・桧柱の熱風・減圧・高周波の複合乾燥法の成果は日本のトップレベル。強度性能評価は地道な研究であるが、基礎となる必要な研究として評価。保存処理で低毒性薬剤の防腐処理技術が確立されると、国産材利用範囲が拡大するので有意義。台形集成材を構造材に使用可能にした意義は大きい。 時代の要請を先取りする研究課題を設定され、一定の成果を得ているが、広く周知し事業化すべく更なる努力を望む。 	

5 技術相談・指導、普及業務、行政検査、 依頼試験等の実施状況 【平均 4.83】	<input checked="" type="radio"/> 非常に優れている (5人) <input type="radio"/> 優れている (1人) <input type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 見直しが必要 <input type="radio"/> 全面的見直しが必要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間の研修、技術指導等明らかである。依頼出来る場所があることは私たちにとっても心強い。 ・ 技術相談等の実施状況は適切であるが、5名の研究員で技術相談300～400件／年、依頼試験30～40件／年はかなりの業務量である。研究員の増加が望まれる。その他は、業界一般消費者向けの講習会などの普及業務は質的に高いレベルで実施されていると見なすことができる。 ・ 各分野での相談、技術指導、依頼試験に適格に対応出来ている。 ・ 非常に少ない人員で木材全般にわたる相談指導に活躍されている。 	
6 人材育成 【平均 3.17】	<input type="radio"/> 非常に優れている <input type="radio"/> 優れている (3人) <input checked="" type="radio"/> 妥当 (1人) <input type="radio"/> 見直しが必要 (2人) <input type="radio"/> 全面的見直しが必要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員研修、試験研究アドバイザー、学会活動などを利用して、効果的に質の高い人材養成が行われている。 ・ 研究員の研修をはじめ、技術レベル高揚に前向きに取り組まれている。 ・ 研究員の人員・配置と関連するが、一人の研究員がすべてを受け持っており、人材育成までは到底無理なのでは？ 研究員の手足となる準備・データ整理等の人員が確保できれば将来的には人材育成となるのではと思う。 ・ 継続性が必要な研究を一人で担当しており、技術等の継承が必要（厳しい財政で要員の縮減される中）である。 	
7 他機関との連携 【平均 3.67】	<input type="radio"/> 非常に優れている (2人) <input checked="" type="radio"/> 優れている (1人) <input type="radio"/> 妥当 (2人) <input type="radio"/> 見直しが必要 (1人) <input type="radio"/> 全面的見直しが必要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 集成加工に関しての研究の例でも、森林総研等の他の機関との連携が迅速且つ的確に出来ている。 ・ 国や他県の研究機関及び大学とも、公私にわたり十分な連携が保たれており、情報や意見の交換はもとより、近隣県の設備の供用も支障なく行われている。 ・ 民間企業との連携により、協同研究できることはないのか？ 研究成果が企業にとってプラスになれば、当センターはもっと活用されると思われる。 ・ 民間企業との協同研究に積極的に取り組む努力を期待する。 	
8 県民への情報発信 【平均 3.33】	<input type="radio"/> 非常に優れている (1人) <input type="radio"/> 優れている (1人) <input checked="" type="radio"/> 妥当 (3人) <input type="radio"/> 見直しが必要 (1人) <input type="radio"/> 全面的見直しが必要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術相談や資料の配付、公開講座、施設見学者、地域の勉強会への参加等を通じて、内容のある情報発信が行われ、地域に大きく貢献している。 ・ 地元業界のレベル向上が、地元産業界の強化になり、経済力の向上になる。加工技術センターからの発信は出来ているが、業界側の受け止め感度が今一歩か？ ・ 現行の周知方法に加えて更なる工夫が必要と考える。 ・ 現在的人数で今以上の情報発信・活用は難しいのでは？ 	
9 前回指摘事項への対応	<input type="radio"/> 非常に優れている <input type="radio"/> 優れている <input type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 見直しが必要 <input type="radio"/> 全面的見直しが必要
<p>(該当なし)</p>	

総合評価 【平均 3.83】	非常に優れている <u>優れている</u> 妥当 見直しが必要 全面的見直しが必要 (5人) (1人)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民の期待に応える応用研究でも全国をリードするレベルの業績を上げている点が評価できるとともに、自ら基礎面でも業績を積み上げている点は研究者である私から見て、特に評価できる。ただし、人員の数、予算においてはさらなる配置配当が望まれる。 ・ 同センターは研究員が僅か5名と少人数ながら、研究活動には目を見張るものがあり、木材加工に関する公設試として我が国屈指のセンターの一つである。研究内容的には、木材利用全般に関わる広い分野での試験研究、普及指導に対応しており、その質は極めて高いレベルにある。現在は近隣県の先導的役割をも果たしているが、研究の効率や継続性を考えると、研究員の増員が強く望まれる。設備機器についても業界を先導できるような安全で精度の高い効率的な最新機種を導入が望まれる。 ・ 20年の歴史で、満足のいく成果を出している。久方振りに訪問して案内をしていただき拝見しました。県レベルの試験場としては、建物とか試験機具はお金を掛けられていないが、研究内容は時機を得た取組や、基礎になることがなされ、地方レベルとしてはトップクラスと評価でき、さすが20年の歴史を感じました。今までの評価は評価として、これからの変化はスピードも早く領域も広がるものと思われまます。それに対応出来る陣容と施設の拡充が必要と思われまます。(県財政が逼迫している時ですが、より産業力を向上させるため) ・ 最少人員で木材全般の相談窓口として良く対応され、研究課題も適切で地域木材産業の底上げに大きく貢献されている。木材業界としては、厳しい財政の下でもセンターの維持拡大を強く要望します。 ・ 西洋の石の文化に対して、日本は木の文化であると言われながら、住まいに関しては昨今、本物の木の文化が伝承されているとは到底思えない。そうした中で県の施設として木材加工技術センターが存在、健在していることは非常に心強い限りである。最小の人数で地道な研究が続けられ、ハードな毎日の中、成果も十分得られている。ただ、県民への情報伝達がうまく行われているか否か？ 森林県岡山の「顔」づくりが必要ではないか？ 例えば、出雲の伝承館、智頭町のような楽しめる、木の良さが実感できる「顔」と技術センターが一体となれば、住まいも変わってくると思われるのですが・・・。 	

留意事項 評価については、いずれかに○印を付け、下欄に助言、指摘事項等を記入